

令和元年度 第6回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和2年1月8日（水） 15：30～17：10

【場 所】 浜益支所2階庁議室

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 期日前投票期間・時間の短縮《案》
- 3) 投票区の統合、投票機会の確保《案》
- 4) 移動期日前投票所のレイアウト（例）
- 5) 第7期浜益区地域協議会（H29.10～R1.9）の総括
- 6) 適沢コミセン（旧カフェガル）施設の有効利用に係るサウンディング型市場調査実施要領（案）

【出席者】 12名（15名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	宮田 勉	○	委員	佐藤 晃一	○	委員	渡邊 真奈美	○
副会長	渡邊 隆之	○	委員	三上 正信		委員	大浦 浩	○
委員	岡本 俊介		委員	阿部 ゆかり	○	委員	寺山 広司	○
委員	久慈 貞子	○	委員	木村 美幸	○	委員	門脇 弥	○
委員	鳴海 翔	○	委員	赤間 香子		委員	羽立 裕子	○

（浜益支所） 松田支所長、成田市民福祉課長併浜益生涯学習課長、
宇野保健福祉担当課長兼はまます保育園長、中野主査、柿岡地域おこし協力隊員
（事務局） 佐々木地域振興課長、藤巻主査
（企画経済部） 中西次長

【傍聴者】 0名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
①投票所運営の見直しについて
- 4 協議事項
①地域おこし協力隊の募集について
②第7期委員からの引継ぎ事項に係る意見交換について
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

2 会長あいさつ

【宮田会長】

あけましておめでとうございます。

本日はお忙しい中、会議に出席いただきありがとうございます。大みそかから元旦にかけ少し吹雪いたが、今年は雪が少なく、皆様、ゆっくり正月を過ごせたかと思っている。

年の初めにあって、区民の皆様にはそれぞれ夢や希望を描きながら、一方では混迷する世界や日本の社会に不安を感じている方もいるのではないのでしょうか。

さて、私たち昨年 10 月から新たな 2 年の任期に入ったわけだが、もう 2 か月が過ぎてしまった。時間の速さを今まで以上に感じるとともに、地域協議会の役割、使命について今更ながら考え悩んでいる状況であり、区民の皆様が私たちに何を望んでいるのか、私たちは何をすべきなのかなど、不透明な課題、そして重い責任を感じている。

このような中、市広報と一緒に、「はまますしんぶん」、「いまはま」、「いっぺ、かだれや通信」が配布された。どれも前向きで、真摯な取り組みが伝わってくる内容であった。関係する皆様には、改めて敬意を表したいと思う。

私は、先の見えない時代だからこそ、私たち地域協議会への期待が大きいと捉えている。今日からまた新たな気持ちで区民の平穏な暮らしと子供や働く若い方たちの夢の後押しができよう皆様と一緒に頑張っていきたいと考えている。

委員の皆様、支所の職員の皆様のご理解とご協力をお願いする。

3 報告事項

(1) 投票所運営の見直しについて

- ・配布した資料に基づき、浜益支所地域振興課から、現段階での状況について説明を行った。

【中野主査】

《期日前投票期間・時間の短縮、投票区の統合、投票機会の確保、移動期日前投票所の設置等、今後変更される旨を説明した。》

4 協議事項

(1) 地域おこし協力隊の募集について

- ・浜益支所地域振興課から、本庁との協議の結果等を説明した後、協議した。

【佐々木課長】

《本庁との協議の結果、来年度の新規隊員募集について正式決定し、募集時期を前倒しする旨を説明した。》

【宮田会長】

第 7 期の会議の中でも話し合われたが、色々な意見が出ていた。テーマ、目的を絞らないで募集したほうが良いのではとの意見もあれば、やってもらう仕事をある程度特定して募集したほうが良いのではとの意見もあった。皆さんどのように考えているのか、意見があれば発言願いたい。

【渡邊副会長】

- ・定住人口を増やす観点から任期終了後に起業することがネックとなり、募集しなかった経緯があるので、その部分をどのようにするのか、また、3 年間だけ活用するなど様々な考え方がある。

【佐々木課長】

- ・最初から 4 年目以降を我々が明確に言うことは難しいが、3 年間の間に十分見通しが描けるような

バックアップ、手伝いをしていきたい。

【宮田会長】

- ・3年間については、ある程度対応してくれる人もいると思うが、その後の定住となるとかなり難しい。新聞などに掲載されていたが、受入自治体が何でも任せ、自由にさせる募集をし、結局は、本人が迷って困ることになるとの例もあるようだし、定住のバックアップも不足しているとのことで、結局、定住に至らない例が多くあるように聞いている。受入側も長い目で対応していただければと思っている。何とか良い方が応募してくれることを期待している。

【渡邊副会長】

- ・定住が理想で、国もそれを目的とした制度だと思うが、そこをどのようにとらえるのか、だんだんと高齢化になり、地域として活性化するためには、自治会を例に挙げると役員の手がいないなどの部分もあり、限界集落、千代志別、床丹など若者がいなくなり、自治会活動そのものが立ち行かなくなっている自治会もあるので、その部分での活用もあると思う。その後の定住はどうなるのかを考えるとなかなか難しいこともあるので、その場合定住を先に考えると難しい面があると思っている。
- ・仕事の確保と定住を見据えながら、進めていくことが一番良い。

【佐々木課長】

- ・補足的な説明になるが、去年の夏、秋ぐらいから、移住フェアや、青年海外協力隊の皆さんの集まりに参加し、目的意識の強い方と話をしてきた。その方に直接案内をすることで、今回の追加募集がより良い方が応募してくれたらいいと思っている。
- ・意識の高い方、将来像を持っている方に巡り合うことで、定住も実現性が上がってくるかと感じている。募集の準備段階、残り期間は短いですが、念頭に入れながら進めたい。

【大浦委員】

- ・子供たちは十分に浜益のことは分かっているが、これをどう発展させて良い方向にもっていくのかを協力隊と一緒にできると良いと思っている。時間の確保で四苦八苦しているところもある。

【渡邊副会長】

- ・募集が一人だから、一つに絞るのはなかなか難しい部分もあるので、農業者と漁業者の考え方も聞きたい。
- ・福祉の關係に携わっているが、介護員が不足している。皆さん承知と思うが、インドネシアから実習生として二人採用しているが、できれば日本の方を採用して従事してもらいたいとの希望はあるが、きつい仕事で、なかなかいないのが実情である。福祉で採用という話も協議会で話題になっていたと思うが、一つに絞るのは難しいと思う。複数募集するなら、一人はどこに、もう一人はどこにとなるが、一人なら、例えば、地域協議会の中で来年度は農業と決められるのかということ、難しいと思う。

【佐々木課長】

- ・テーマを1本に絞る必要はなく、複数あっても良いと思う。一次産業で志のある方、福祉で志のある方。そのほか具体的な自分の目標があって、浜益で活躍したいとの思いがある方などある程度幅広く考えながら、例示をしても良いと思っている。

【渡邊委員】

- ・以前、塾の話題になったが、8月20日の道新で、夕張市で地域おこし協力隊が、公設塾の先生として活動しているとの記事が出ていて、そういうのも一つかと思う。

【佐々木課長】

- ・オホーツク方面で、JICA出身の教員免許を持っている方が地域おこし協力隊員となって、地域の歴史を学ぶようなことをしているのをニュースで見た。各地域でそのような方を採用し始めていると感じている。

【宮田会長】

- ・昨年の地域協議会の会議の中で、塾がほしいとの意見が出ていた。浜益はそういう機会が少ないので、そういう方が来ていただければ、非常にありがたい。

【渡邊副会長】

- ・私は、自治会での協力をしていただける方、それだけではなく色々な部分で活躍して、その一つとして、自治会を手伝っていただける方と思っている。

(2) 第7期委員からの引継ぎ事項に係る意見交換について

- ・浜益支所地域振興課から、引継ぎ事項とそれに関連する旧適沢コミュニティセンターの再活用の施策を説明した後、協議した。

【佐々木課長】

《第8期委員への引継ぎ事項、今後実施予定のサウンディング型市場調査の内容及びスケジュールについて説明した。》

【宮田会長】

- ・初めての委員の方もいますが、第7期の総括と引継ぎが資料に記載されている。最後のページに地域振興のアイデアを実現可能なものにしていくとの文言が書かれているが、どちらかと言うとアイデアの出しっぱなし、もう少し詰めていくことが大事だと思う。アイデアをいかに形にするかが大事だと思う。そこを第8期で何とか協力し、頑張っていきたいと考えている。その中の一つであるが、カフェ・ガルの後の活用も大事になってくるのではと思う。なるべく早い時期、とはいつ頃になるのか。

【佐々木課長】

- ・この調査をしてどこが使うのかを決めるのではなく、どのように使ったらよいのかというアイデアを、実際に使うことになるかもしれない民間事業者の方から意見をもらって、その意見を地域協議会でも議論したうえで、利用の公募をする。二段階の手続きになるので、正直なかなか時間が掛かると思っている。希望としては、夏ぐらい。現状では冬の暖房が使えないので、夏の暖房のいらない時期しか活用ができない状況なので、春から秋までに足掛かりをつけられたらと思っている。

【宮田会長】

- ・最初の段階の考え方を募るその民間事業者は、こちらから指名するのか。

【佐々木課長】

- ・一般公募なので、サウンディング調査を実施していることを広報いしかりなどに掲載するなど周知をして、応募があった事業者に意見をもらえたらと思っている。この協議会の中では、例えば、簡易宿泊施設にしてはどの意見もあったが、民間業者目線ではそれは難しいとなるかもしれない。要するに役所的な考え方では、市場性は困難との結論になるかもしれないので、そこを探りたいのが、この調査の趣旨である。

【寺山委員】

- ・適沢コミセンについては、地域協議会が発足してから解決していない課題である。15年過ぎているが、発展していない。カフェ・ガルをオープンしてみたり、漁協青年部でみなと祭りだとか、婚活も実施したりしているが、一向に発達しない。色々聞いてみると制約がありすぎるから、範囲が狭くなり、負の部分が出てきて、前に進めない状況が出てきているのかと感じている。民間業者に考えていただければ、どのようなリスクが生じるかが分からないにしても悪いことにだけ使われなければ、規制を撤廃して、やってもらったほうが良い。ただ、民間業者は、利益がなければ撤退してしまうので、そのリスクだけを加味しながら、やらないと前には進めない案件である。解決するのであれば、方向転換を思いきりしないといけない。

【宮田会長】

- ・その通り。あまり役所的な制約が多すぎる。それは事実だと思う。今回は、それを一步抜け出し、

自由な発想で進めて、利用方法を考えてもらう。そして、我々の役目は、出てきた案から地域協議会で判断することなのか。

【佐々木課長】

- ・制約があれば使えないとの意見もあるが、例えば冬期間暖房を使えないのでは話にならないのであれば、暖房設備を改修しなければならない。

【寺山委員】

- ・それらをすべて業者に任せるようにしたほうが、良いのかと思う。一部行政が手を出すと行政の言いたいこともあるだろうし、調査を実施するのであれば業者に任せないと進まない。
- ・カフェ・ガルとして地域の方々が頑張ったが、うまくいかなかったりしていた。

【佐々木課長】

- ・制約は壁になるとの提案をいただいたら、この会議の場で意見を伝えた中で、議論をしていただき、公募要件を固めて、実際に実施する業者を公募する手続きをする。それで二段階と言った。
- ・旧適沢コミセンの奥は公園で、勝手に更地にしたりできない。例えばテニスコートを作ったらとなったら、今段階では無理だが、その自由な発想のアイデアを募集するスタンスで考えている。

【大浦委員】

- ・最終的に、市の建物のままにしたいのか、それとも民間に売却するつもりなのか。

【佐々木課長】

- ・今回の調査では、所有形態も自由である。買い取りもあり得る。

【大浦委員】

- ・参加業者は、ただ意見を言って終わるのではなく、参入したいからだと思うが、ある意味入札なのかと思う。何かしら提案があれば、その中で決定するイメージがある。

【佐々木課長】

- ・実際の入札とは、一線を画している。あくまで提案をもらい、もし売るとなったら、協議会に諮って決まれば、改めて売る形態で民間業者を募集する。そこで入札する。プロポーザル、コンペの感じで発注する。

【大浦委員】

- ・サウンディングに参加した業者が、案を持ってきて、それで良いと決まり、入札したときに折角意見を持ってきた業者が外れ、違う業者になることもあるのか。

【佐々木課長】

- ・あり得る。

【大浦委員】

- ・入札だから仕方がないが、それはどうかと思う。

【宮田会長】

- ・サウンディング型は、国土交通省の政策だと思うが、市では行っているのか。

【佐々木課長】

- ・結構実施している。厚田区内の学校も統合になり、閉校が複数出たので、サウンディングで募集し、意見を募った。
- ・手上げた事業者に優位性を与えるとのやり方もあるが、今回考えているのは、切り離し、改めて公募条件を整理したうえで、入札、金額の多寡でなく、実際はプロポーザルによるアイデア提案の形で審査しようと思っている。

【大浦委員】

- ・市の所有なのか、手放すのかとの話があったが、現状で売るとなったらどれくらいの額になるのか。

【松田支所長】

- ・一概には言えない。評価額では1,000万円くらいだが、そのまま売値にするのか、何らかの調整をして販売するのか、市有物件なので、市場価格でないだけにももの考え方はある。

【大浦委員】

- ・暖房が使えない、それも含めて現状のものをただ、建物と土地のベースを知りたい。

【佐々木課長】

- ・評価額、1,100万円くらいである。ただ、施設としてはあちこちガタがきている。土地は別。土地込みとなると金額が上がる。

【大浦委員】

- ・建物だけで1,100万円なのか。土地を含めるといくらになるのか。

【佐々木課長】

- ・土地の評価額はまだ算定していない。土地は建物も含め、あの辺り一帯の大きい区画である。そこも含めて自由に考え方を提案していただく。簡単な様式なので、細かい部分、書面の中で分からない部分は、対話、ヒアリングで聞き取る。

【松田支所長】

- ・今の施設状況を知っているので、冬場は使えないという言葉が出てしまうが、だからといって夏場だけにしてくださいとか、借りるなら使用料を払ってくださいなど、細かい部分の判断のしようがない。
- ・ここで夏場に物を売りたいという意見は去年からあるが、ある業者から提案があったからといって、そのままその業者に決めることにはならないので、一度オープンにして、どのような使い方ができるのか、本当に事業をやる方の意見を聞いたうえで、どのようなスタイルがあるのかをまず検証させてほしいというのがこの調査である。
- ・市の施設として活用してきたが、維持管理が困難で閉鎖せざるを得なくなり、その後をどうするかという検討が続いていた。そうした中、何とか地域で活用したいというのがガルであり、運営費は全部賄いきれないが、基金で少し応援してでもその活動で使ってもらおうこととした。
- ・その後、高齢となって継続が難しくなり、残念ながらやめることになったが、そのガルがなくなって、この施設を潰して良いとは皆思っていないので、もう一度、何らかの可能性があるのなら、その可能性を探ってみて、具体化できる方向にもっていききたい、という準備の作業だと捉えていただきたい。
- ・そこで我々が思いつかない意見が色々出てくることを期待している。こちらからその状況を話しつつ、最終的にどういうスタイルで活用していったら良いのかをまとめていきたい。しかし、やめてから1年が経っているので、施設は使わなくなったら一気にダメになる。時間をゆっくりかけていられないので、何とか調査を経て、早い時期に活用ができるよう、進めたいと思っている。

【宮田会長】

- ・我々も役所の考え方、制度、予算が頭にあって、そこから抜け出せない状況でいるが、自由な発想を聞いてみたいと思う。こんな活用の仕方もあるのかなど、目の覚めるような案が出てくるのを期待しているし、実際聞いてみたいと思う。

【大浦委員】

- ・建物の金額は分かったが、暖房等を含めた具体的な概算金額の情報がないと考えようがないと思う。

【佐々木課長】

- ・暖房も設置するものによるが、その辺の見積もりが手元にない。要領にも書いているが、実際現地見学を日程調整し行く。その時に考えていただくこともあると思う。現状を見ていただくのが手っ取り早いと思う。

【寺山委員】

- ・施設は使わなければダメになると言ったが、今までも空いていたことがあるが、施設維持の金額は結構投資しているので、造りはしっかりしているから、すぐダメになることはないと思う。

【渡邊副会長】

- ・民間のノウハウを持った方が参加してくれればいい。この地域の方々に利用してもらうのも限界がある。前回は誰もやり手がなく、コミセンの廃止まで使用していて、愛着がある施設だから、責任を押し付けた感じでカフェ・ガルがスタートした経緯があるので、そのようにならないように続けて、活性化に繋がるような使われ方、民間業者であればいいと思っている。

【松田支所長】

- ・皆思っているようにいかに有効活用しようかとの視点は一緒なので、その切り口としてこの手法で検討したい。

【宮田会長】

- ・過密なスケジュールだが、何とか良い方向にもっていけるよう、取り進めていただきたい。
- ・浜益村時代に村民が楽しみ、活用していた施設なので、有効活用が図られればと思う。

5 その他

- (1) ベトナムダルニー奨学金について
大浦委員から情報提供があった。

【大浦委員】

- ・修学旅行において横浜で物品販売をした収益金をダルニー奨学金に寄付し、一人の子を3年間、もう一人の子を1年間、学費を全部負担することとなり、先日、奨学金の証書が送付された。
- ・現2年生も来年度同じ活動をする予定である。今後も続けていきたい。
- ・なぜベトナムにしたかと言うと浜益にベトナムの方が就労されていることがあり、生徒からベトナムにしたいとの申し出があり決定した。

- (2) 石狩縦断コンサートツアー2020について
柿岡地域おこし協力隊員から情報提供した。

【柿岡地域おこし協力隊員】

- ・厚田協力隊の今野さんが今年任期満了になる。
- ・1月18日にコンサートが決定した。会場は、支所3階の元議場で10時から開催する。入場料は無料となっている。10時から11時までなので、ご近所の方お誘いのうえ、お越しいただければと思う。

- (3) 地域の魅力発信！移住&地域との関わり創出フェアへの参加について
浜益支所地域振興課から情報提供した。

【佐々木課長】

- ・昨年11月に横浜で開催されたフェアに、岡本委員、わかもん会の坂本さんとともに参加した。
- ・当日は、全国108の地域が参加、浜益区ブースにはコンスタントに足を運んでいただけた。
- ・最終的に4名の方から今後の連絡先を入手できた。新年度の地域おこし協力隊の正式な募集が始まったら、早速ご案内したいと考えている。
- ・また、当日は東京浜益倶楽部の大江会長はじめ、4名の浜益倶楽部会員の方々も駆けつけていただ

いた。

- (4) 川下・柏木コミセンの統合施設に関する検討状況について
浜益支所地域振興課から情報提供した。

【佐々木課長】

- ・昨年から検討を進めている川下・柏木コミセンの代替施設の検討であるが、昨年10月10日、両地区の住民を対象に住民説明会を行い、速やかな建設のために用地取得や土地の造成費などがかからない、市有地に絞った検討案として、川下海浜公園内の浜益川河口付近を含む3案を提案させていただいた。両地区役員レベルでは、この浜益川河口付近案が使い勝手などの面で望ましいという感触であった。
- ・しかしながら、その後、台風19号による本州の甚大な被害をまのあたりにし、やはり、災害に強い施設が必要であるという判断から、浜益川河口付近に新たな公共施設を建設することはできないという方向性が昨年11月21日の自治懇話会で、市長から示された。
- ・このことから、津波や洪水など、ハザードマップの危険区域を避け、民有地も含めてエリアを拡大して再検討することとなった。また、人口減少が進む中で、川下・柏木のそれぞれには建設せず、1か所に統合した施設を建設するという考えも改めて示された。
- ・その後、昨年12月には、改めて両自治会役員の方々との意見交換会を開催している。その中では、一つの考え方として、現在、旧摺鉢山スキー場周辺に、消防の川下・柏木・実田の3分団の統合詰所建設の話が進んでいることを踏まえ、今回、川下・柏木コミュニティセンターを1つに統合する施設もその近くに建設してはどうかとの考えをお伝えしている。
- ・ただ、その場合、川下・柏木の両地区からはそれぞれに遠い場所となってしまうので、役員会やちよつとした会合など、普段使いのための交流スペースとして、空き店舗の一部を改修して活用する地域サロンを別に設置してはどうかという案も併せて説明させていただいた。
- ・今後も地域の方々と意見交換を進めてまいりたいと考えている。

6 次回の開催日程について

【佐々木課長】

- ・令和元(2019)年度第7回の協議会は、2月に開催することとし、後日改めて通知する。

7 閉 会

令和 2 年 2 月 7 日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮 田 勉